

秋と漫步

萩原朔太郎

青空文庫

四季を通じて、私は秋という季節が一番好きである。もつともこれは、たいていの人と共に通の好みであろう。元来日本という国は、気候的にあまり住みよい国ではない。夏は湿気が多く、蒸暑いことで世界無比といわれているし、春は空気が低く憂鬱であり、冬は紙の家の設備に対して、寒さがすこしひどすぎる。（しかもその紙の家でなければ、夏の暑さがしがれないのだ。）日本の気候では、ただ秋だけが快適であり、よく人間の生活環境に適している。

だが私が秋を好むのは、こうした一般的の理由以外に、特殊な個人的の意味もあるのだ。というのは、秋が戸外の散歩に適して

いるからである。元来、私は甚だ趣味や道楽のない人間である。
釣魚とか、ゴルフとか、美術品の蒐集などという趣味娯楽は、
私の全く知らないところである。碁、将棋の類は好きであるが、
友人との交際がない私は、めったに手合せする相手がないので、
結局それもしないじまいである次第だ。旅行ということも、私は
殆どしたことがない。嫌いというわけではないが、荷造りや旅費
の計算が面倒であり、それに宿屋に泊ることが厭だからだ。こう
した私の性癖を知つてゐる人は、私が毎日家の中で、為すこともな
い退屈の時間を殺すために、雑誌でもよんでもろごろしてゐるの
だろうと想像している。しかるに実際は大ちがいで、私は書き物
をする時のみ、殆ど半日も家の中にいたことがない。どうするか

といえば、野良犬のらいぬみたいに終日戸外をほツつき廻っているのである。そしてこれが、私の唯一の「娯楽」でもあり、「消閑法」であるのである。つまり私が秋の季節を好むのは、戸外生活をするルンペルンペたちが、それを好むのと同じ理由によるのである。

前に私は「散歩」という字を使つてゐるが、私の場合は少しこの言葉に適合しない。いわんや近頃流行のハイキングなんかと
 いう、颯爽さつそうたる風情ふぜいの歩き様をするのではない。多くの場合、私は行く先の目的もなく方角もなく、失神者のようにうろうろと歩き廻つてゐるのである。そこで「漫歩」という語がいちばん適切しているのだけれども、私の場合は瞑想めいそうに耽り続けているのであるから、かりに言葉があつたら「瞑歩」という字を使いたい

と思うのである。

私はどんな所でも歩き廻る。だがたいていの場合は、市中の賑^{にぎ}やかな雑^{ざつ}沓^{とう}の中を歩いている。少し歩き疲れた時は、どこでもベンチを探して腰をかける。この目的には、公園と停車場とがいちばん好い。特に停車場の待合室は好い。単に休息するばかりでなく、そこに旅客や群集を見ていることが楽しみなのだ。時として私は、単にその楽しみだけで停車場へ行き、三時間もぼんやり坐っていることがある。それが自分の家では、一時間も退屈でいることが出来ないので。ポオの或る小説の中に、終日群集の中を歩き廻ることのほか、心の落着を得られない不幸な男の話が出ているが、私にはその心理がよく解るように思われる。私の故郷

の町にいた竹という乞食は、実家が相当な暮しをしている農家のひとりむすこ一人息子でありながら、家を飛び出して乞食をしている。巡回が捕えて田舎の家に送り帰ると、すぐまた逃げて町へ帰り、終日賑やかな往来を歩いているのである。

秋の日の晴れ渡つた空を見ると、私の心に不思議なノスタルジアが起つて来る。何處とも知れず、見知らぬ町へ旅をしてみたくなるのである。しかし前にいう通り、私は汽車の時間表を調べたり、荷物を造つたりすることが出来ないので、いつも旅への誘いが、心のイメージの中で消えてしまう。だが時としては、そうした面倒のない手軽の旅に出かけて行く。即ち東京地図を懐中にし、本ほんじょ所深川の知らない町や、浅草、麻布あさぶ、赤坂などの隠れた

裏町を探して歩く。特に武藏野の平野を縦横に貫通している、様々な私設線の電車に乗つて、沿線の新開町を見に行くのが、不思議に物珍らしく楽しみである。碑文谷、武蔵小山、戸越銀座など、見たことも聞いたこともない名前の町が、広漠たる野原の真中に実在して、夢に見る竜宮城のように雑沓している。開店広告の赤い旗が、店々の前にひるがえり、チンドン樂隊の鳴らす響が、秋空に高く聴えているのである。

家を好まない私。戸外の漫歩生活ばかりをする私は、生れつき浮浪人のルンペソ性があるのか知れない。しかし實際は、一人で自由にいることを愛するところの、私の孤独癖がさせるのである。なぜなら人は、戸外にいる時だけが實際に自由であるから。

青空文庫情報

底本：「猫町 他十七篇」岩波文庫、岩波書店

1995（平成7）年5月16日第1刷発行

底本の親本：「萩原朔太郎全集 第九卷」筑摩書房

1976（昭和51）年5月25日

入力：大野晋

校正：鈴木厚司

2001年10月11日公開

2016年1月17日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

秋と漫歩

萩原朔太郎

2020年 7月12日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>